

道徳科学習指導案

主題名「働くことの意義とは？」〔学指要領：C13 勤労〕

令和5年11月7日（火） 第6校時 2年1組教室
安中市立第二中学校 2年1組 指導者 塩原 幸徳

I 主題設定の理由

1 価値観

勤労は、人間生活を成立させる上で大変重要なものであり、一人一人がその尊さやその意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、社会生活の発展・向上に貢献することが求められている。

この時期の生徒は、将来の自分が就きたい職業や、仕事に対するイメージを、まだ十分にもつことができない状況だと言える。仕事をするものの意義や目的を見いだすことが難しく感じる生徒も増えているのではないかとと思われる。働く目的には、働くことで得られる収入で個人や家庭の生活を維持することや社会の中で一定の役割を果たすことが挙げられる。職業は、一人一人の人生の中で重要な位置を占めており、働くことそのものが、よりよく生きることと深くつながりがある。そこで、働く目的だけではなく、勤労の尊さや意義、勤労を通して社会に貢献することについて考えを深める必要がある。働くことの喜びや社会とのつながりについて考えることで勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする態度を育むことが大切である。

2 生徒観

本学級の多くの生徒は学級の中での自分の役割である係活動や当番活動、学校の中での委員会活動などに真摯に取り組むことができる。しかし、各活動を「やらなければいけないこと」として捉えている生徒が少なくなく、各活動についてやりがいを感じ主体的に取り組んでいる生徒は少数である。また、1年次の総合的な学習の時間において、「キャリアパスポート」を通じ『職業選択の理由』や『働くこと』について学習してきたが、自分自身の将来について、未だ自分事として捉えることが難しく、進路選択に悩んでいる生徒も多い。

本時の学習を通して、勤労とは、自分の能力や個性を生かしてお金を稼ぎ、自分の生活を豊かにするというだけでなく、人の役に立つことでもあるということに気づかせたい。そして、自分の興味ある職種への職場体験を通じ、実際にその職種で働く人との交流を想起させ、勤労の意義について考えを深め、仕事をするを通して、人とのつながりをつくり、社会に貢献し、社会を支えていこうとする実践意欲を育てていきたい。

3 教材観 教材名「段ボールベッドへの思い」（出典：中学道徳2 光村図書）

本教材は職場体験をした中学生が、段ボールを作る会社に勤務する方の話から、勤労の尊さや意義について考え、同時に働くことを通じて社会に貢献し、人の役に立つ仕事をするものの大切さに気付いていく内容である。会社の方から、非常時に使用できる段ボールベッドを考案し、避難者の二次的健康被害や震災関連死の予防について役立っている話を聞く。ベッドや設計図の無償提供のことも知り、働くことには、利益を出して収入を得ることだけでなく、他にも大切な思いがあるということに気づいていくというあらすじである。

本教材は職場体験をもとにして書かれた教材であり、実際に職場体験を行い様々な職種に触れた生徒自身がより身近に感じられる教材である。

職場体験先の会社が、無償で段ボールベッドを提供した理由を考えたり、友達と意見交流したりすることで、勤労が利益を得ることだけが目的ではなく、様々な思いがあることに触れ、改めて勤労の意義について考えを広げることができる教材となっている。また、本教材を扱うことで、勤労の尊さや意義について考えるだけでなく、自分自身が行った職場体験について各事業所の方々がどのような思いをもって働いているのかを考え、自分の将来の生き方について考えを深めることができるとともに、学校生活における各種活動において主体的に取り組もうという姿勢の大切さに気付くことができる適切な教材となっている。

II 本時の学習

- ねらい 災害避難者の健康を考え、段ボールベッドを考案した会社の人の話から、人にとって働くことにはどんな意義があるのかを考え、意見交流を通して、働くことにはさまざまな側面があることに気づき、人や社会のために働いていこうとする意欲を育てる。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される生徒の反応〔S〕	○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(9分) S：仕事をするのは、収入を得るため。 S：好きな仕事をして、充実した人生にするため。 <めあて> 働くことの意義は何なのだろう。	○働くことの意義について問題意識をもち、周囲の友達の考えと比較できるように、職場体験での話をきっかけに、人が働く理由について問いかける。【★一覧表示】 ○1年前の自分の考えと比較できるように、昨年度のキャリアパスポートの「職業選択の理由」を参考に、今の自分について考えるよう促す。
2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分) 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分)【★共同編集】 ◎「将来あなたが、社会の一員として働くとき、大切にしたい思いはどんなことですか。」 S：様々な要望に応じて、きちんと仕事をするでお金を得ること。 S：人や生活のため、役に立つことを見つけて、それを継続していくこと。 ◇「職場体験で関わった人たちは、どんな思いで仕事に取り組んでいたのだろう。」 S：収入を得ることだけでなく、利用する人たちのことを考えていたな。 S：利用する人たちの視点に立って仕事をしていた。	○教材の理解を深めながら範読を聞くことができるように、災害時の避難所の様子や写真を提示し、教材の概要を事前に伝え、状況や立場などに着目しながら範読を聞くよう促す。【★提示】 ○働くことの意義について、様々な視点から考えることができるように、自分が会社員としての立場だったらどうするか(無償で設計図を公開することに賛成か・反対か、またそう考えた理由)を問いかける。 ○自分の考えをより確かなものにできるように、思考ツールを活用し、導入時の3つの視点(経済性・個性・社会性)に着目するよう促す。 ○生徒同士の意見交流を行う際には、他者の考えを参考にしながら、自分の意見との共通点・相違点を目に向け、働く時に大切にしたい思いについて、広い視点で考えられるよう促す。 【★提示・配布】
4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(8分) S：お金を得るだけではなく、人の役に立とうとする気持ちが大切だと思う。 S：社会や人のために貢献することが大切だと思う。 S：何かの使命をもって仕事に取り組むことが大切だと思う。	○導入時の自分の考えと比較できるように、導入時の考えを閲覧してから、自分の考えを記入するよう促す。【★一覧表示】 ○働くことの意義について多面的・多角的な見方や考え方ができるように、生徒の考えを3つの視点(経済性・個性・社会性)ごとに整理して板書する。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(8分) <振り返り> S：職場体験で関わった人たちも、様々な思いがあって仕事をしていただと思う。自分も、今は、何が最も大切かは分からないけれど、これからの生活で見つけていきたい。	○自己の生き方につなげられるように、道徳的価値に対するこれまでの考えや、勤労について新たに考えたこと、気付いたことを記述するよう促す。

◆評価の視点

発言およびワークシートの記述から、「勤労の価値について考え、働くということには、さまざまな側面があるということについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。

発言およびワークシートの記述から、「働くことの意義について考え、将来、自分も社会の中で人とのつながりをつくりながら社会に貢献できるように働いていくことについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。